

# 普通科の挑戦

普通科では、国語、数学、英語を少人数授業で学びます。英語演習では、1年を通していわき在住の海外の方に役立つ情報を店に伺って収集し、英語で発信する活動を行っています。卒業制作では、いわき旅行プランの発表も行います。

震災学習では、東日本大震災・原子力災害伝承館で当時の様子や復興の歩みの理解を深めます。

## 震災学習（施設見学）



## 震災学習（ワークショップ）



## 留学生向けの生活情報を動画で紹介

### Halal Food in Iwaki



## 卒業制作として英語でいわき旅行のプランを発表する様子





# 商業科の挑戦

商業科では、簿記会計の知識、情報処理におけるパソコン活用能力を習得し、資格の取得を目指します。

課題研究では企業と連携し、鮭や玉ねぎ、桃など地元の農林水産物を活用した商品の企画、商談、販売からPR活動まで一貫して取り組んでいます。

また、**高校生販売甲子園**や**社会貢献活動コンテスト**にも**挑戦**しています。

福島県産桃の果汁を使ったOKわたあめ



梶葉町のサツマイモを使った「OKこぐまパン」



富岡町の玉ねぎを使った総菜の販売



木戸川の鮭を使った  
ドレッシング（一番星）と鮭マヨパン



鮭の稚魚放流





# 海洋科の挑戦

海洋科では、漁業を支える人材育成を目指し、船舶を操船する海技士などの資格、魚の育成、水槽の管理などを学習します。

課題研究では、**循環式ろ過養殖システム**を用いたニジマスやバナメイエビの**陸上養殖の研究**をしており、漁獲量向上のためのノウハウを学んでいます。

ニジマス及びバナメイエビの陸上養殖の研究



カッター（手漕ぎボード）の実習



ダイビングの実習



アクアマリンふくしま  
職場体験実習



漁業実習で釣ったヒラメ





# 食品システム科の挑戦

食品システム科では、水産物の製造・販売に関する学習をし、HACCP基本技能検定をはじめとした資格の取得を目指します。

**魚の缶詰の製造が行える施設は県内で唯一**であり、実習で製造した食品は実習製造販売会などで実際に販売します。

課題研究では、地元の魚を利用した魚醤の製造や地場産品を利用したレシピ開発を行い、**水産業の特色・魅力をPR**しています。

缶詰製造の実習



魚醤の販売



ジャム作りの実習



かつお節の製造の研究



福島県産の食材を利用した  
レシピ開発



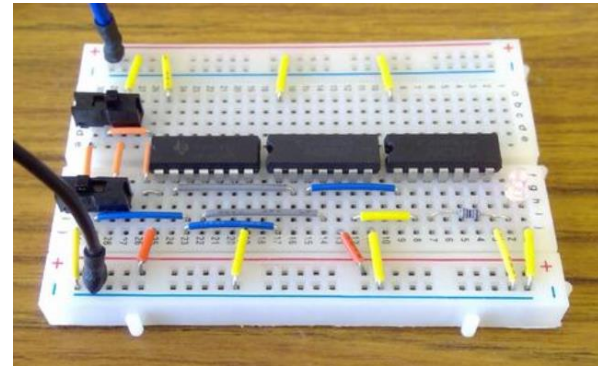


# 情報通信科の挑戦

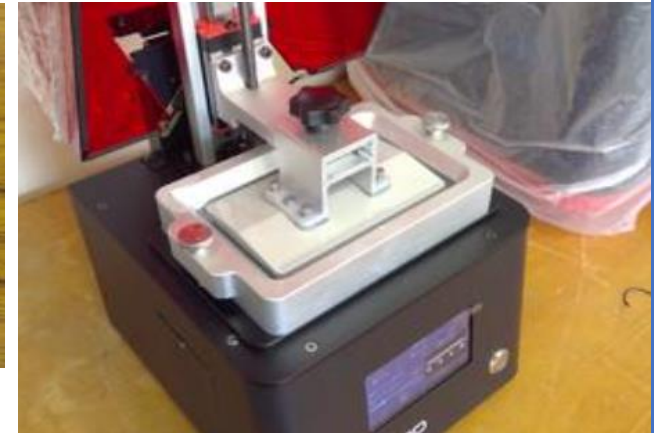
情報通信科では、**東北地方で唯一無線通信に関する学習**を行っています。モールス信号送受信やドローン操縦など無線技術で実践を学び、無線通信士や無線技士の資格の取得を目指します。

課題研究では、IoT技術を利用した水温、pH、水質管理の研究や、空中ドローンの海洋分野での活用に係る研究をしています。

デジタルICによる  
基本理論回路の実習



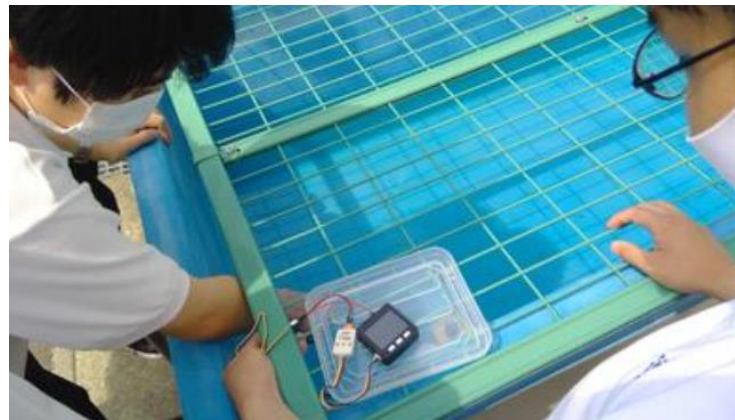
3Dプリンターを使った  
メダカ用のトンネルの作成



沿岸航海実習（船橋での見張り）の様子



メダカの水槽の不純物を測定する様子



空中ドローンの操作訓練と河川調査





# 海洋工学科の挑戦

海洋工学科では、海や陸上の内燃機関や機械設計に関する学習、福島丸での遠洋航海実習を通して海上及び陸上機械について学び、海技士やボイラ技師の資格の取得を目指します。

課題研究では、水中ドローンを利用した**船体整備**や**海洋環境調査の研究**、魚の不可食部を活用した堆肥での**生分解性プラスチックの分解研究**などを行っています。

福島丸での遠洋航海実習



堆肥を混ぜた砂浜における  
生分解性プラスチックの分解調査



生分解性素材の袋やスプーンを  
海に沈め分解調査



3Dプリンターでのルアー作り



水中ドローンの操縦演習



## 齊藤教頭先生からのメッセージ

東日本大震災から時間が経ち忘れがちなことになりますが、あの日感じた絶望から不自由なく生活できる今があることは皆様の支援のおかげであると感謝しています。誰かのために何かを行うと口で言うことは簡単ですが、支援をしてくださることは大変なご負担もあったかと存じます。皆様の真心に心から感謝しています。

支援により学校生活を繋いでいくことができたので、教員、生徒一丸となって本校の発展や震災復興に寄与していきたいと考えています。

福島イノベーション・コースト構想事業では、震災復興のため福島県の高校生に様々な学びのチャンスを与えてもらっている機会となっています。本校では、陸上養殖やIoTの研究、魚醤の開発、環境問題と新しいジャンルに挑戦しています。

福島県だけでなく、全国で災害が起こり苦しんでいる方が多くいることについて心が痛む部分もあります。東日本大震災で私たちが経験したことの中で、今苦しんでいる方を勇気づけたり支援したりできることがあれば、いつでも恩返しをしたいと思っています。

本校にお手伝いできることがあれば、お声がけいただけると幸いです。



齊藤 道雄 教頭先生

## 今井さんからのメッセージ

海洋科3年の今井稜也です。

海洋科では、1年の時にカッター実習、2年でスキューバダイビングの実習、乗船実習を行いました。現在は、小型操縦士の免許の勉強や漁船で釣りの実習をしています。卒業後は、請戸漁港で漁師になりたいと考えています。



**今井 稜也 さん**

震災当時は4歳で、妹と一緒にいるときに地震が起きました。電気が通っていなかったなので妹を守るために慌てて土足でコタツに入り、二人でできるだけ温かい格好をして寒さをしのいでいました。福島県は復興をしている中だと思いますが、まだまだ復興途中の地域もあります。今後私が請戸漁港で漁師になり、水産業を通して福島県を盛り上げていきたいと考えています。

福島県はおいしい食べ物があり、魅力的な場所もあります。是非福島県に遊びに来て、常磐ものを食べてみてください。



## 小沼さんからのメッセージ

海洋工学科3年の小沼徹です。

海洋工学科で一番印象に残っているのは、乗船実習です。エンジニアとして機関当直を行ったり漁業体験をしたりしてメンバーとのチームワークを学びました。また、部活動では水産クラブで海ごみボランティアを行っています。浜辺に行くといつもごみが溜まっているので、ポイ捨てを減らすとともにボランティアの参加者を増やしたいと思っています。卒業後は専攻科で2年間学習し、その後船舶の機関士として小名浜の水産業を担う存在になりたいです。

今の福島県は少しずつ震災前の福島県に戻ってきていると思います。しかし、相双地区など一部地域では原発の影響で大変な思いをされている方もまだまだ多いと思うので、いち早く復興できるように国の方々に頑張ってもらいたいです。

まだまだ福島県には風評被害があると思っています。しかし、それ以上に福島県はいいところで常磐ものなどブランド商品もあるので、是非福島県に来ていただき私の好きな常磐ものを食べてもらいたいです。



小沼 徹 さん



## まとめ



先生方は震災後、生徒の減少や学校存続の危機に直面しながらも、県内唯一の水産高校として学校の発展に向けた働きかけを行い、また、生徒の皆さんも福島イノベーション・コースト構想を通して新たな取り組みに挑戦したり、夢を持って勉強や実習に励んでいたことに感銘を受けました。

お話を伺った今井さん、小沼さんは卒業後福島県の水産業に携わるとのことです。小名浜海星高校で学んだことを今後社会で活かして、福島県水産業の発展に貢献することへの期待を感じる取材となりました。

**小名浜海星高等学校の皆様、ご協力ありがとうございました！**

(HP) <https://onahamakaisei-h.fcs.ed.jp/>